

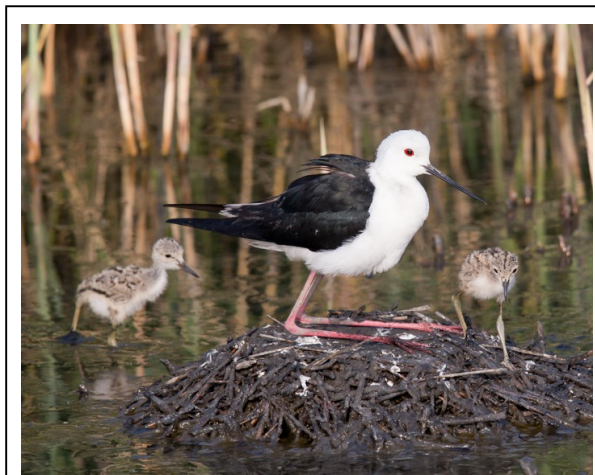
セイタカシギ *Himantopus himantopus* (Linnaeus)

【選定理由】

国内で繁殖が確認されているのは1975年から愛知県、1978年から千葉県、その後東京都や三重県、2009年には鹿児島県沖永良部島で繁殖記録があるが、現在も繁殖が継続しているのは愛知県の数箇所と東京湾の数箇所のみである。国内の繁殖ペア数は20～30ペア程度で、愛知県は本種の最大の繁殖地であるが、本種の繁殖成功率は極めて低く、繁殖は成功しない場合が多い。

【形態】

全長 35～40cm、翼開長 67～83cm。雄の背と翼は光沢のある黒色、雌は背の部分が黒褐色で光沢がない。雌雄とも頭部は白色から頭頂や後頸に黒色があるものがあり、黒色の大きさやの形は多様である。幼羽は、背が褐色で黄褐色の羽縁があり、若鳥の次列風切の先端は白い。脚はピンク色で非常に長く、嘴は細くて長い。飛翔時は、背、腰、尾の白色が目立つ。



愛知県西尾市, 2017年6月11日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

伊勢・三河湾沿岸の干拓地や埋立地などに周年生息するが、繁殖場所は限られている。

【国内の分布】

主に春秋の渡りの季節に渡来するが、越冬するものも少なくない。伊勢・三河湾や東京湾沿岸などに小規模な繁殖群が確認されているが、越冬個体数は沖縄で比較的数字が多い。

【世界の分布】

ユーラシア中部、アフリカ、インド、東南アジア、オーストラリア、北アメリカ中部から南アメリカと広く分布し、5～6亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

春は4月から5月、秋は7月から10月頃、沿岸部から平野部の水田や水路、池沼などの淡水湿地に渡来し、単独から数羽の群れで生息する。浅い水中を歩きながら水棲昆虫や貝類、小魚、オタマジャクシなどを捕食する。国内の繁殖数はごく少ないが、干拓地の水田や水路、埋立地にある水たまりの周辺に、ヨシの茎などを集めて営巣し4卵を産む。通常、営巣場所は止水の水辺であるために、豪雨などで急激に水位が上がると一帯の巣は全て水没して繁殖失敗となる。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在の県内では西尾市一色地区の干拓地で10ペア以上の他に、境川河口周辺でも数ペアの営巣が確認されているが、尾張地域や東三河地域の営巣場所は、開発による環境変化で消失している。なお、毎年国内で最も多くのセイタカシギが営巣する県内の繁殖地には、産業廃棄物処理場建設計画がある。

【保全上の留意点】

西尾市の旧一色町にある竹生新田の水路は、本種にとって国内最大の繁殖環境である。ここを保全することは、県内のみならず、国内に生息する本種にとって、最も効果的な保護施策といえる。

【特記事項】

4月半ば頃までは、繁殖地に戻っても群れで集まっていることが多い。オオタカやチュウヒなどの天敵が繁殖のために移動して、完全に居なくなるまでは営巣を始めることはない。

【関連文献】

環境庁自然保護局野生生物課, 2000. 平成11年度冬期シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報, p.25. 東京.

(高橋伸夫)